

ニューヨークの文化、芸術、歴史を肌で感じた 30 日間

平成 29 年度遊学者 建石香乃子

日本とは全く違う環境、慣習の国で、自分の視野は想像以上に広がりました。ニューヨークという土地が持つ、人々の干渉しすぎない自由さ、しかし互いに尊重しあう精神、意志を持って自立している姿、それらに触れられただけでも私にとって今までにない、貴重な経験となり、自信を見つめ直すきっかけともなりました。日本にも様々な国や地域の人がありますが、ニューヨークはその比ではありません。世界中から様々な人種や民族、国籍の人々が自らの目的や意見を持って集まり、共存している光景を目の当たりにし、目を奪われました。

わたしは大学の授業で比較文化論という授業を取っているのですが、「アメリカは世界中で個人主義志向が一番強い国」ということを分析した論文や統計を学びました。そのことを実際に感じる事ができ、大学での勉強と繋がり、嬉しくもありました。

治安という面で一か月間に身の危険を感じた出来事や大変だったこともいくつかありました。ミュージカル帰りの深夜に突然地下鉄が止まってしまい、黒人ハーレム街で半ば強制的におろされた時は本気で焦りました。地図で大通りを調べ、TAXI を呼び、なんとか助かりました。また、万引きの共犯にされそうになったこともありました。そんなときにも誰に頼るわけでもなく、すべて自分で解決したことで、私自身も人として成長できたと実感します。

まず、最大の目的であった Broadway Dance Center でのダンスレッスン。BDC は Basic クラスから Advanced クラスまで、全六段階のレベルに分かれている点がさすが本場は違うなと感じました。初心者からプロ志望の人まで、そして様々な国や地域から来た人が同じ場所でレッスンを受けられる、共存している、素晴らしいなと感じました。

日本ではなかなかありえないことです。日本人の国民性なのか、どこか排他的なところがあるため、また人の目を気にしすぎるため、やりたいと思ったことに誰もがすぐにチャレンジできるわけではない日本。それに対し、誰に対してもチャンスがあり、自分のペースで歩むことができるニューヨーク。だからこそ、世界中からダンスをしたい人が集まる、良い指導者も集まる、ダンス界に活気が生まれる。相乗効果だと思いました。

私は今まで、クラシックバレエとジャズダンスをやってきました。その二つはもちろんですが、やったことのない Theaterdance や Jazzfusion、Hiphop、バーレスクダンス、Jump&Turn といった種類のレッスンも受けてみました。

どのレッスンにも共通していたのが、90分中の45分くらいかけてストレッチと筋トレをしたことです。それほど大切なんだと身に染みて分かりました。残りの時間は曲に合わせて振り子を踊り、毎回最後にグループごとに披露しあいます。BDCの生徒はみな、自己アピールが積極的で、自分を見て欲しい！見てる人を楽しませたい！という気持ちが表情や魅せ方を通してとても伝わってきました。私は技術的なことばかりに気を取られていて、まだまだだなと強く実感しました。

でも、恥ずかしがったり恐れたりせずもっと自分を出して踊ろうという風に自分の意識が変わりました。レッスンを重ねるにつれ、変化が生まれ、動きも表現も大きくなり、踊っているときの表情や笑顔がいいねと言っただけでした。技術的にも、どんどん上級クラスにチャレンジし、レベルの高い人たちの中で、自分に足りないものを探しながら、少しでも近づけるように研究できました。

BDCの生徒にインタビューしてみたところ、ヨーロッパ、アジアなど様々な国から、本気でプロのダンサーや、ミュージカル俳優を目指して来ている人から、趣味や毎週の楽しみとして気楽に受けに来ている人まで、目標や目的は多岐にわたりました。また、ニューヨークの一番の中心地でダンスができるという付加価値も大きく影響していると分かりました。



ニューヨークにいる間、ブロードウェイミュージカルを鑑賞するというのも目的でした。これもまた、日本だと誰もが簡単に観れるという印象はないですが、ニューヨークでは見たいと思

った日に「Tkts」に行けば簡単にチケットを取って観ることができるという点で、誰にでも舞台芸術に触れる機会が開かれているなど感じました。

3作品観たのですが、私が最も感動したのは「CHICAGO」です。舞台上には何のセットもなく、衣装も全員黒で衣装替えもない。出演人数はたったの20人ほど。それなのに、瞬きも惜しいくらいに引き込まれました。歌やダンスは言うまでもなく、何より観客を巻き込むパワーが素晴らしく、終始感動していました。こんなにも観客とオーケストラと役者が一体となっている空間は初めてでした。



また、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ニューヨーク自然史博物館の鑑賞にも行きました。ゴッホやピカソやレンブラントといった有名な画家の作品を見ることができ、貴重な経験でした。

ここで気づいたことが、入場料がとても安いということです。近代美術館とメトロポリタン美術館は無料で入れますし、自然史博物館も世界最大の博物館と言われるわりには、入場料は安かったです。調べてみると、経費はニューヨーク市や政府が負担しているそうです。誰もが平等に文化や芸術に触れる機会を持てる、素晴らしい政策だと思いました。

このように、ニューヨークでは子供のころから舞台や文化や芸術に触れる機会が日本と比べて多いです。結果的にそれらに携わりたい、また、それらを様々な方面から支えたいという意識が生まれ、仕事にしていく人が増え、発展していくのだらうと考えます。



もう一つ、ニューヨークにいる間の貴重な経験が、9.11 同時多発テロ事件の追悼記念日に居合わせる事ができたことです。当日はどのテレビ局も、犠牲者一人ひとりの写真と共に名前が読み上げられていました。日本人の名前もありました。私は前の日に世界貿易センタービルの跡地へ行きました。すでに多くの人が追悼に訪れており、重々しい空気でした。

世界平和というのは大きすぎて普段は深く考えないけれど、じっくり考える時間を持つことができ、ここで感じたことを今後も絶対に大切にしていきたいと思いました。



この遊学を通して、自分の視野や考え方が広がり、地域や身分関係なくすべての人に、文化や芸術に触れる機会を届けたいという思いが一層強くなりました。そして、日本の文化や芸術が盛り上がり、広まることに貢献できる人になりたいと思います。

ニューヨークで過ごした日々全てがわたしの財産となりました。ありがとうございました。

